



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして

12



「クリスマス～さんたさん～」リサイクルみなみ作業所 成田 定雄さん
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 11.1 職員研修..... P2～3
- ▶ 「ひいらぎホーム」移転、新築へ..... P6

2025年12月15日 毎月1回15日発行 一部200円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

ゆたか福祉会

検索



ゆたか福祉会HP



公式 Xアカウント



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

11.01

職員研修開催 in ウィンクあいち

はじめに

当日の参加者は約130名。午前は、運動委員会の提起による平和の取り組み（前半）の報告と、きょうされん奈良大会の概要報告、また6月末より理事長に就任した後藤強よりの挨拶が行われました。

午後から平和の取り組み（後半）として、日本被団協の大村氏の講演と、きょうされん分科会で報告したゆたか作業所の実践報告、新たに顧問となられた鈴木清覚氏の講演と鼎談と盛りだくさんの企画でした。以下、取り組みを紹介します。

午前企画

ゆたか福祉会と 平和運動の歴史・ 自治会連合会の取り組み

最初に「ゆたかと平和運動の歴史」を運動委員会の熊谷理事から、続いて「自治会連合会の取り組み」を自治会連合会担当の佐野職員が報告しました。

熊谷理事はゆたか家族・関係者からの戦時中体験談をもとに、「『非国民・ごくつぶし』などと周囲から見られ、戦争が終わっても後遺症などが残り、『戦争は新たな障害者を生むから絶対に反対』である」と伝えました。その他に法人理念や平和行進にも触れ、「ゆたか」がなぜこの行事に参加しているのか意味・意義を説明し、各事業所での活動も併せて報告しました。

佐野職員からは自治会連合会活動報告が行われました。2022年度に自治会規約第4条5項に「平和の学習に取り組み」ことが追加された経緯があり、石橋自治会会長の「平和について考えたい。ウクライナの人たちに今何が出来るのかを考えたい。」という思いが背景にあることを伝えてくれました。

今年度の「平和学習会」では、「デイスサービス宝南」の利用者から「足が速いから戦闘機がきたらみんなに逃げる伝令役をしていた」など、戦争体験談を話してもらったこと。参加した利用者からも「戦争は絶対にいけないこと」などの感想があったことが報告されました。

私の被爆体験

報告 杉浦 敬子氏

被爆にあったのは当時5歳の頃。22歳のときに母から被爆者健康手帳を渡されて初めて「『被爆者』というレッテルを貼られた！」と自覚した」と語られました。当時は差別が根強い時代で、夫と子供以外には伏せてきたこと。55歳のときに「体験したものが話さないと」と、背中を押され証言をするようになったと話してくれました。

戦争を伝えるのは過ちを繰り返さないため。手記を残した母に感謝をしながら語り継ぐことの大切さを実感されたこと。「是非、広島や長崎の原爆資料館に足を運んで当時の様子を学んでほしい」と話されました。

午後企画

講演

今こそ平和について、
一歩踏み出そう

（日本被団協二世委員会委員長・
愛知県原水協代表理事）

大村 義則氏

「今日の聞き手
は明日の語り部」
最後に話された
この言葉が響き
ました。「今こそ
平和について考
え、一歩踏み出そう」と題して話されました。「アメリカの核を使う拡大核抑止で国民を守る義務があるので禁止条約には加盟できない」と、核兵器禁止条約と日本の現状に触れました。



また2024年12月10日、オスロでの被団協ノーベル平和賞授与式の様子を話されました。戦後80年の節目で「戦後はない」という言葉を聞きます。日本で戦争が無くても世界各地で戦争は起きています。それが終結したときに本当の戦後を迎えるのか、戦後80年だから考えるのではなく、日常の事として考えることが大切だと感じます。

「運動委員会」委員長 石田和久

ゆたか作業所 実践報告

レポート

「『いつまでも健康で自分らしく生きたい!』という思いに寄り添って」

生活支援員 佐藤真代

作業所で開所当初から利用されている仲間たちは、現在70歳代。機能・体力低下や気持ちの変化が現れてきました。「できていたことができない」「やる気がでない」「仕事のやり方を忘れてしまう」など、自信を無くしたり、虚無感を抱える仲間もいました。

仲間の葛藤を感じながら職員も悩みました。しかし基本はやはり仲間と一緒に考えることでした。「好きなように生きたい」「わからん」そんな思いも受けとめながら、高齢期の仲間を中心にした新しい現場を立ち上げました。そして

① 人生をゆたかに彩る
② 健康で長く過ごす
ことを大切にしたい実践を模索してきました。

加齢による機能低下、コミュニケーションの取りにくさ、分かりにくさが顕著になるなど支援の課題もあります。社会から取り残されていた時代に、「障害があっても働ける

んだ!」と働く場づくりをしてきた仲間たちの「自分らしく生きたい!」という思いに寄り添いながら、人生をゆたかにしていく実践をしていきたいと思っています。

理学療法士 今村修

加齢に伴う障害の重度化を防ぐために、日頃からリハビリに取り組み感じている事、実践している内容、改善策について報告させてもらいました。

障害を持つなかまは、重度化を比較的若いうちから招きやすいと言われています。確かにそのような傾向を肌で感じています。しかし業務に当たる中でその原因の一部は意外にも私たちの足元で起きていて、「早期に気付くことができれば、対処できるケースも多いのではないか」と思うようになりました。

このアプローチできるチャンスを超最大限、逃がさないために「私たち



が今できること」「日頃から備えておくべきこと」をまとめました。まだまだ発展させていく必要性のあるご家族・多職種との連携は、「障害の重度化を防ぐための成否を握る鍵」と言っても過言でないほど、チームアプローチの重要性を感じており、今後の課題として取り組んでいます。

鈴木顧問講演・鼎談

午後の後半では「私の人生のターニングポイント」と題した講演と、「鈴木顧問に聴く」をテーマに、岡山理事をコーディネーターとし、後藤理事長との鼎談でした。顧問の生い立ちに始まり、日本の障害者就労の発展に大きく寄与された立役者として、また法人創成期には様々な人に支えられ活動を広げられたことが語られました。

自ら関わった「きょうされん」「セルフ協」が、日本の大きな運動に発展していったことや、海外にも目を向け、日本流の障害者福祉を推進してきた事など、対談ではゆたか福祉会の歴史を中心に顧問の軌跡を辿っていきました。

また、過去に県から業務改善命令が出されたきっかけとなった「綱領教育」の人権侵害に発展した事態は、

事業継続に大きな歪みを落としたこと。体制の刷新、再生に向き合った事を、後藤理事長の補足を交え語られました。現在の理念「尊重」すべての人々がかけがえのない存在であることを認め合い、その尊厳を大切にします。が、「過去の過ちを二度と繰り返さない決意となった」と伝えられました。この教訓を継承することを、当時を知らない職員含め共有されました。

最後に、市場化した今の福祉の課題として、質が後追いになっている実情に触れられ、「主体性をいかに持つか自ら考え、判断し、働くことの重要性」を伝えられました。



夏のボーナスを使って楽しい取り組み♪

きらきら班

今回は「体を動かしたい!」「美味しいご飯を外で食べたい!」というなかまの声から「ボウリングとランチセットを食べる」という2本立てとなりました。

ボウリング挑戦が初めての方もおり、各々がワクワクと緊張に包まれながらの実施となりました。車椅子利用の方でも取り組めるよう補助の道具をお借りすることで、全員が最後まで投げ切り、大盛況で幕を閉じました。投球中の他のなかまを応援したり、若いなかまを優しく見守る先輩の姿など、温かい場面をいくつも見る事ができました。「まだ投げ足りないな〜」という声が、参加者最高齢の方から挙がったのも印象的でした。

その後昼食はデニーズへ。事前に食べたいメニューを決めて向かい、疲れを癒す食事の時間を心待ちにされている方も多くいらっしゃいました。普段は異なる仲間と職員の昼食場所ですが、こうした外食を通じてなかまの輪に加わり、一緒に喜びを分

かち合うことができることも「取り組みならではの良さだ!」と思いました。

日々の仕事の瞬間とは別のなかまの顔を見る事ができ、つゆはしが未だにボーナスや取り組み代獲得を目指し、活動を行っている意味の一つでもあると感じます。さて、次回はどんな取り組みを、みんなで計画できるでしょうか。つゆはしのみなさん、これから共に頑張って参りましょー!



ほかほか班

これまで、ほかほか班のボーナス取り組みといえば、楽しい外出、食べ放題の焼肉、お買い物定番でした。が、今年は船をチャーターしてのクルージングとステーキガストでの食べ放題、そしてお買い物と初めての場所ばかり。

今年度入所された18歳の仲間も初めての取り組みの経験となり、職員もドキドキでその日を迎えました。



天気にも恵まれた宮の渡しから名古屋港までのクルージング。「こわいよー」と伝えたり、顔がこわばり動けなかったり、気持ちよく風にあたり楽しむ仲間など、色々な顔を見ることができました。初めて船に乗る方も多く、良い経験となりました。

昼食は事前に予約・注文をし、スムーズに進んでいましたが、気持ちが先走ってしまった仲間が色々なハプニングを…。これもまた仲間の新しい発見と経験に繋がったと思います。ブックオフではCDや本、ミニカーなど思い思いの物を「自分で選び、自分で購入する」を体験し、良い経験の場となりました。

ほかほか班では、取り組みを様々な経験の場として位置づけ年2回行っています。皆さんも楽しみな行事です。新しいなかまを迎え、勝手のわからない様子を優しく見守る先輩たちと、「次の取り組みまで仕事頑張る!」と、一緒に手を挙げる後輩の様子も垣間見ることが出来、次への繋がりを感じた取り組みでした。



10.29

うたごえ交流会in港区役所講堂

歌でつながる心、

なかまが主人公の交流会



平和を願い

今年も自治会連合会主催で「うたごえ交流会」が開催されました。前回に続き、現地とオンラインのハイブリッド形式。会場には利用者・職員あわせて約100名が参加。オンラインも含めると、130名以上がこの交流の場に集まりました。

今回も、うたごえには欠かせない名古屋青年合唱団のお二人、武藤さんと脇谷さんにご参加いただきました。お二人の明るく力強い歌声と掛け声に導かれ、時間があっという間に過ぎていきました。

主催者を代表して自治会連合会の石橋会長の挨拶では、このうたごえ交流会の二つのテーマとして

＊戦後80年という節目を迎え、世界中の人々が平和を願うステージにしたい

＊ゆたか福祉会が大切にしてきた歌や「なかまが主人公」という思いを共有し、仲間一人ひとりが輝ける場にしたい

という願いが述べられました。この願いは、歌の力を通じて参加者の心にしっかりと届いていたように感じます。

合唱は全部で12曲。「幸せなら手をたたこう」から始まり、ゆたか福祉会から生まれた曲もたくさん歌い、懐かしくも心に響く歌声が会場いっぱいに広がりました。

途中では、「秋に食べたいもの」「秋に行きたい場所」など、仲間たちの声を即興で歌詞に取り入れる場面もありました。「柿！焼き芋！ハワイ！鹿児島！」と、その場で生まれる歌に笑顔と拍手が絶えず、まさに「なかまが主人公」のステージとなりました。それぞれが「特別」を感じる素敵な合唱となり、歌を通じて心がひとつになる瞬間が何度も訪れました。希望や思いが歌にのること、なかま自身が主役となる喜びを感じることができたと思います。

未来につながる歌

このうたごえ交流会は、毎年の恒例行事となりつつあります。

2019年3月に開催予定だったゆたか福祉会50周年のために、大規模で歌の練習をしてきた経過があります。コロナ禍で中止となり、「以前のような規模ではできないだろう」とあきらめていた時期もありました。

しかし今回の交流では、人に会える嬉しさやぬくもりを改めて感じる事ができました。「やっとここまで戻ってきた」と嬉しく思い、それはこの会場でしか味わえない、大切でかけがえのない時間だったと感じています。



参加された方からは「久しぶりにみんなと会えて嬉しかった」「最後まで現地で参加したかった」という感想がとても多くありました。

自治会連合会役員会での振り返りでは、石橋会長が「ゆたか60周年まで続ける！」と、力強い言葉で未来に繋げる決意をされました。今後も、歌を通じて心を通わせる場を大切にし、仲間とともに笑顔あふれる時間を育んでいきたいと思っています。

大切にしてきた歌には多くの思いが詰まっています。職員には、歌と手話をしっかりと引き継いでいってほしいと願っています。

自治会連合会担当

山崎真由美

ひいらぎホームの 新築戸建てへの移転にご協力を!!

ゆたか生活支援事業所かさでら（以下、事業所かさでら）のグループホーム「ひいらぎホーム」では、5名の男性利用者が暮らしています。現在の賃貸集合住宅に入居して9年が経ち、建築から40年以上が過ぎた建物は老朽化が深刻です。一昨年から水漏れや汚水の逆流が何度も発生し、そのたびに利用者はかさでらホームの体験部屋へ避難し、不安な時間を過ごさざるを得ませんでした。配管は大規模修繕が必要で、すぐの対応は難しいとの説明もあり、近隣で代替物件を探しましたが、今と同じように隣接する2部屋を確保できる物件は見つかりませんでした。「安心して暮らしたい」という仲間の願いを叶えるため、ひいらぎホームの移転は事業所かさでらの最重要課題となりました。

そんな中、2023年に粕島ホームの隣接地が売りに出され、法人で購入することができました。土地が確保されると、新築戸建てへの期待が広がり、「こんなホームに住みたい」という声が次々と上がりました。「歳を重ねても安心できるエレベーターがほしい」「こだわりが強い人も落ち着けるよう、刺激の少ない環境にしたい」「みんなで団らんできる広いリビングがいい」「晴れた日は布団を干したい」「きれいなお風呂に入りたい」「仲間が来た時に自転車を置く場所も必要」など、たくさんの思いや願いが語られました。粕島ホームの隣という立地に、粕島ホーム・ひろめホームの利用者も「〇〇君はいつ来るの?」と心待ちにしています。職員にとっても、困った時に相談し合える安心の環境が整います。

しかし、設計士による図面作成が進むと、建設に必要な資金の大きさという現実的な課題が明らかになりました。建築資材や人件費の高騰、さらに借入金利の上昇により、当初の想定を大きく上回る費用が必要となったのです。福祉医療機構から3,000万円を借り入れる予定ですが、自己資金として3,300万円を準備しなければなりません。グループホームの家賃には建物修繕費は含まれるものの、土地取得や新築費用は含まれておらず、南区の作業所の協力がなければ計画は前に進みませんでした。作業所の皆さんが長年積み立ててきた資金の一部を繰り入れてくださることで、ようやく実現に向けての道が開けました。

11月14日に無事に入札が完了し、移転計画はいよいよ具体化しています。今後は理事会で入札結果と契約の承認を得て、12月18日の地鎮祭を経て、2026年6月末の完成を目指して進んでいく予定です。

現在、建設協力募金にも取り組んでいます。安心して暮らせる新しいひいらぎホームづくりのため、皆様の温かいご協力を心よりお願いします。



鳴尾ホーム改修工事を終えて

ゆたか生活支援事業所なるおの「鳴尾ホーム」は、ゆたか福祉会で初めてのグループホーム（当初は福祉ホーム）である「ゆたか鳴尾寮」に隣接したホームです。1982年に「ゆたか鳴尾寮」が開設してから5年後の1987年に、平屋建ての木造民家を改装して開設されました。

そして開設から15年後の2002年に、それまでのホームを壊して、鉄骨造り3階建てのホームとして建設されました。それから既に22年。建物内部の傷みがひどくなり、特に浴室は壁が剥がれたり、脱衣所との間の扉が頻繁に外れたり、浴槽の栓もうまく閉まらず、水漏れすることもありました。

今回業者に、システムバスの取り換えについて相談をしたところ、外壁も含め改装するよう勧められ、外壁とあわせて屋根やベランダも改装することになりました。見積額は約650万円。事業所の積立金取り崩しや借入、本部からの繰り入れ等々で何とか財源の見通しもつけることができました。



工事は9月中旬から10月中旬の1か月で完成！今は新しくなったお風呂に嬉しそうに入る仲間たちの笑顔が見られます。塗り替えられた外壁、屋根やベランダも改装され、お風呂もシステムバスになり、生活のしやすいきれいなホームになりました。

ゆたか生活支援事業所なるお所長 岡原真吾

アルコールチェッカー導入

2023年12月から、11名定員以上の自動車を1台以上、または10名定員以下の自動車を5台以上使用する事業所は、アルコール検知器を使用した酒気帯びの有無を確認することが義務化されました。

あかつき共同作業所（以下「あかつき」）も対象の事業所となるため、検知器を購入し実施しています。アルコールチェックの結果を、自動で記録されるようなアプリや機械もありますが、「あかつき」はチェック後に職員に確認をしてもらい、自分で記録表に記入する方法で行っています。

スタートしてから間もなく2年になりますが、まだ十分定着したとは言えません。これまでは運転前にチェックをしていましたが、この夏より運転の有無に関係なく酒気帯びでないか確認するため、朝作業所に来たら全員チェックすることにしました。

しかし忘れてしまい、運転直前に行うことがまだまだあります。

す。また終業後も勤務中に飲酒していないかの確認のため、チェックしなくてはいけないのですが、忘れてしまうことが多々あります。

確認は安全運転管理責任者が管理者より指名を受けた人が行うことになっています。しかし不在のこともあり、その時事務所にいる職員が確認をしています。これらの課題を安全運転への意識向上とともに、取り組んでいきたいと思っています。

所長 源平 由佳



きょうされん 第48回全国大会 in 奈良開催

2025年10月17日(金)・18日(土)の2日間、奈良県奈良市の奈良県コンベンションセンターをメイン会場として、「第48回全国大会 in 奈良」が開催されました。

今大会のスローガンは「はじめよう 戦後80年から咲かせよう まんまの笑顔をくみんなのチカラ 奈良の地から」です。戦後80年という節目を意識しながら、「どんなに重い障害をもついても、誰もが人間らしく、自分らしく、生きたい」という願いの実現を、「地域から全国へと広げる場」と位置づけられ実施されました。

今大会は「初めて奈良県で開催」という点も大会の大きな特徴です。スローガンで掲げた「まんまの笑顔」という言葉は、障害のある人が「そのままだに」、ありのままに暮らせる社会を願うものです。戦争・人権・障害の視点を重ね合わせた社会課題的な文脈も含まれています。全国から

ら集まる参加者が、2日間に渡って分科会・フォーラム・交流会等で学びあいました。ゆたか福祉会からも40人以上が参加をしました。

特別シンポジウムは、「障害のある人と戦争を考える」というテーマでした。きょうされんの大会では初めて、「日本原水協被害者団体協議会」の濱住氏を講師に、戦後80年の今を生きる私たちに求められていることを、共に考え深めあう機会となりました。

「核兵器と人類は共存できない」「障害者権利条約は平和の礎があつてこそ」との発言が心に深く残りました。

2日間天候にも恵まれ、笑顔がたくさん見られた大会でした。次回第49回全国大会は大阪で行われます。そして再来年の第50回の節目の大会は東京で行われる予定です。「また来年会いましょう」を合言葉に会場を後にしました。

今治 信一郎

参加者の感想

ふれあい共同作業所 大石 雅生

今回は2名のなかまの方と参加しました。17日はオープニング「まんまの笑顔を咲かせよう」の生ライブに参加。身体でリズムをとりながら、なかま同士で歌詞を見合う等、普段とはまた違う関わりも見られました。シンポジウムは戦後80年の中で平和を考え、核と抑止について新たな視点を学ぶ機会になりました。

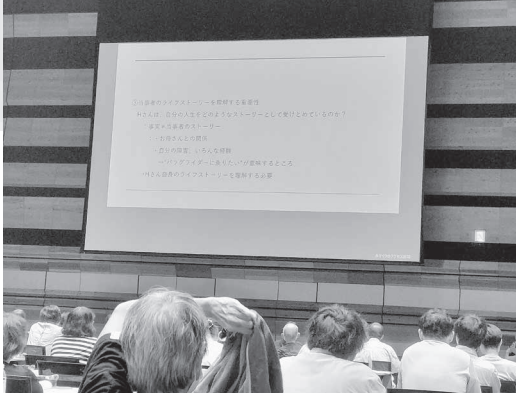
18日は「たのしむ」分科会に参加し、約130名の前で作業所紹介の発表をしました。挙手や「軍手やってます！」等、緊張の中でも精一杯の表現をされていました。

また発表後から、他の発表に一層拍手やリアクションをとる様子もあり、作業所代表の意識を持たれた印象でした。大会後はお二人より「よかった!」「サイコー!」との感想もいただきました。

なるみ作業所 荒川 実里

入職して10年以上経ちますが、今回初めて参加させていただきました。当日会場に集まった人数を見て、きょうされんの組織の大きさに圧倒されました。約700人が集う大きな会場で歌われた大会テーマソング「まんまの笑顔を咲かせよう」が楽しくも力強い曲で、一緒に手拍子しながら歌ったのが良い思い出となりました。

2日目は分科会「重度・重複障害のある人の支援」に参加しました。今回2施設の発表を聞いて、他施設でも同じような課題と向き合っていることを知り、「あるある」といった共感しながら、「自分の施設でどう生かせるだろうか」と



考えるとてもいい機会になりました。参加した2日間、大変貴重な経験ができてよかったです。

ゆたか希望の家 早川 遥

分科会は「国際交流」に参加しました。今回はカンボジアの障害者支援や、地域開発などを行うDDSPという団体のフェン・サムナンさんからカンボジアの障害者福祉の現状や、歴史背景などの話を具体的に聞くことができました。

残酷な歴史と、農村部の障害者とその家族の厳しい現状がある中でもDDSPは、「障害者だけでなく、その家族も含めて支援し、生活できるように仕組みづくりをしている」ことに感銘を受けました。

仕組みのないところから、動き、広げていく。日本の障害者福祉も同じだったと思い「今できる支援を頑張ろう!」と思いました。

ゆたか生活支援事業所ながわ 笹谷 果凜

まず初めに感じたのは、仲間がこの大会をすごく楽しみにしていたことです。オープニングの「まんなの笑顔を咲かせよう」を参加者で歌う場面では、舞台上上がった仲間が率先して声を出して歌うだけでなく、身体を使ってリズムに乗っている姿が印象的でした。初めて見る仲間たちばかり

でしたが、その姿を見て「毎日楽しく生活できているのではないかな」と感じました。

平和の主張では、仲間が自らの言葉で主張し、平和への願いを考えていました。自分もその平和の願いがかなえられるように、支援の仕方を考えていくべきだと感じました。

「仲間たちのまんなの笑顔」を咲かせるために、私に出来る事を今、やっていきたいと思っています。

ライフサポートゆたか 細田 裕介

今回、初めて「きょうされん全国大会」に参加させていただきました。今まで参加する機会もなく、当日は緊張しながらも「何をするのか」とワクワクしていました。

会場に着き、人数の多さと熱気に驚きました。特別シンポジウムのお話を聞いて「これから被爆者の方々に直接お話を聞き取る機会が少なくなっていく、みんなの関心が少なくなっていく可能性もあり、風化させないようにしていく」こと。2日目の分科会で参加した「暮らし・居住」については、「暮らしている方々一人ひとりが、より良く暮らせるようにしっかりと考えていかなければいけない」ことを学びました。

2日間を通して緊張が強く、うまく馴染めていなかったのでもう「また参加してみたい」と思いました。

相談支援事業所ゆたか希望の家 土屋 明日風

全国大会に初めて参加しました。基調報告で藤井専務理事が「全国大会は『慣れ』という鎧を落とす場でもある」とお話され、私にとってまさにその様な機会になりました。1日目は、特別シンポジウムを聞き、「一人一人が平和を意識し、戦争をさせない努力が必要だ」と感じました。

2日目は、「相談・支援」の分科会に参加しました。ソーシャルアクションの報告を聞き、各地の現状や足りない制度等についてグループワークで意見交換をしました。「今の制度はこれまでの運動の証だ」と感じ、とても勉強になりました。

今回参加させていただき、運動の大切さを改めて認識しました。「要望書や名古屋市との懇談会などが、今後どのように進んでいくのか」関心を高めることができました。



「相談・支援」の分科会



「クリスマス～さんたさん～」

～リサイクルみなみ作業所～

成田 定雄さん

表紙の作者紹介

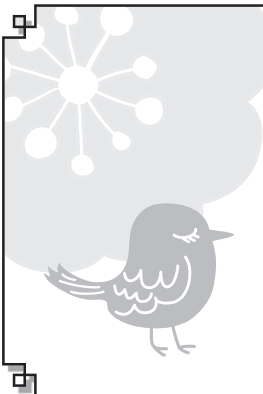
メリークリスマス☆多かったです12月！
真夏から、クリスマスに関連した絵をご自宅に描かれていて、みなさんの目にご披露できることを「今か、今か」と待ちわびていました。

昨年は作業所にもサンタさんやツリー、くつ下などの絵を飾っていただき、「仕事、仕事」の毎日にイロドリを加えてくださいました。

プライベートでは、自転車に乗って図書館へ行き図鑑で研究したり、お出かけを楽しみ、プールに毎週通われるなど充実しています。

今年度の日帰り旅行（掛川花鳥園）でも、実物の鳥たちよりも見つけた図鑑の方を食い入るように見ていました。

さすが！芸術肌の定雄さん！



順不同／敬称略

岩本 榮子	森 素子	飯田 立輝	神田 清一	瀬口 昭代	宇都宮 啓子	竹原 正明	大浦 光義	神田 すみれ
後田 剛	古川 英利	赤星 俊一	大野 洋志	池田 昭子	中村 邦夫	亀田 やよい	高橋 正教	西尾 明

近藤産興(株)

（10月24日～11月22日
手続き分）

賛助会員新規加入者
更新者ご芳名一覧

ACCJ

一般寄附（10月）

広報・515号

2025年12月号（2025年12月15日発行）

定価1部200円

法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集／社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷／株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費＝年間1口6,000円、

賛助会員（個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円）

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・あいち銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

※初めてお振込をいただく方は、お手数ですが
法人本部（052-698-7356）へご連絡ください。



10月

- 13日(月) 大清水センターまつり
- 14日(火) 事業運営推進会議
- 16日(木) 広報・ホームページ編集委員会
- 17日(金) きょうされん第48回全国大会
in 奈良（～18日）
- 21日(火) みらいろ名古屋市指導監査
- 22日(水) 所長会議
- 23日(木) 福祉村将来構想検討委員会
- 24日(金) 事務担当者研修
- 27日(月) 研修部会議
- 29日(水) コミュニケーション研修 /
就労支援事業推進委員会 /
自治会連合会うたごえ交流会

ゆたか福祉会 事業一覧

一人ひとりが主人公。
みんなの夢が
息づく場所です！

法人本部

法人本部
ゆたか障害者福祉研究所

名古屋事業本部

ゆたか作業所(南区) ☎ 052-692-3531
みのり共同作業所(南区) ☎ 052-612-6237
リサイクルみなみ作業所(南区) ☎ 052-612-5391
トライズ(南区) ☎ 052-825-4022
ふれあい共同作業所(南区) ☎ 052-613-2479
ワークセンターフレンズ星崎(南区) ☎ 052-824-4450
なるみ作業所(緑区) ☎ 052-878-6921
ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-6912
つゆはし作業所(中川区) ☎ 052-353-3175
リサイクル港作業所(港区) ☎ 052-382-1933
みらいろ(港区) ☎ 052-382-3200

相談支援事業本部

緑区障害者基幹相談支援センター

障害者相談支援センターみどり(緑区) ☎ 052-892-6333
地域活動支援センターしかやま(緑区) ☎ 052-892-6006
ゆたか相談支援事業所どうとく(南区) ☎ 052-692-3539
相談支援事業所ゆたか通勤寮(南区) ☎ 052-611-7789
相談支援事業所ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-8776
ゆたか相談支援事業所あおなみ(港区) ☎ 052-382-1991

尾張事業本部

あかつき共同作業所 ☎ 0568-25-0171
あかつきヘルパーステーションはなキリン 同上
ゆたか生活支援事業所尾張
ケアホーム徳重 ☎ 0568-22-8587
ケアホーム北野 ☎ 0568-68-8844
ケアホームあかつき ☎ 0568-54-2700

福祉村事業本部

キラリンとーぷ ☎ 0536-65-0370
生活サポートセンター名倉【相談】 ☎ 0536-65-0372
設楽町権利擁護支援センター 同上
※デイサービスなぐらは

2025年3月末をもちまして事業を廃止致しました。

名古屋高齢事業本部

ケアサポート宝南
デイサービス宝南 ☎ 052-618-0205
グループホーム宝南の家 ☎ 052-613-5081
ケアサポート宝南【相談】 ☎ 052-613-6055

地域支援事業本部

ゆたか通勤寮 ☎ 052-611-7781
ライフサポートゆたか【ヘルパー事業所】 ☎ 052-825-4404
ゆたか生活支援事業所なかがわ
つゆはし板倉ホーム ☎ 052-354-0678
上脇ホーム ☎ 052-352-3266
あおなみホーム ☎ 052-355-9339
ホームみらい ☎ 052-383-5580

ゆたか生活支援事業所みなみ

グループホーム エール ☎ 052-619-6052
エールI・エールII
ホームみのり ☎ 052-612-9480
元塩ホーム ☎ 052-614-4691
第二八光荘 ☎ 052-612-3986

地域生活支援拠点事業所まーぶる

まーぶるホーム ☎ 052-691-0161

ゆたか生活支援事業所かさでら

第1かさでらホーム ☎ 052-618-7171
第2かさでらホーム
ひいらぎホーム ☎ 052-611-6955
粕畠ホーム ☎ 052-824-9590
ひろめホーム

ゆたか生活支援事業所なるお

ほしざきホーム ☎ 052-825-4359
ゆたか鳴尾寮 ☎ 052-613-3021
鳴尾ホーム ☎ 052-611-3588
第一八光荘 ☎ 052-614-4345
わかばホーム ☎ 052-614-2785
あさがおホーム ☎ 052-613-5606

ゆたか生活支援事業所みどり

大清水ケアホーム ☎ 052-876-8820
なるみホームひまわり ☎ 052-893-7575
かきつばたホーム ☎ 052-680-7777
みずひろホーム ☎ 052-715-8336

ゆたか生活支援事業所あつた

第1ホーム白鳥 ☎ 052-671-0067
第2ホーム白鳥
第3ホーム白鳥
第1ゆたかホーム太陽 ☎ 052-691-4004
第2ゆたかホーム太陽
明治ホーム

その人らしく働く暮らし

Vol.131

仲間

「優しい気持ちをいつまでも」

キラリンとーぷ 服部 恵子さん



恵子さんは56歳。名古屋から2008年10月、「第2ゆたか希望の家」に入所されました。

施設名は、2023年に「グループハウスなぐら」と統合し、「キラリンとーぷ」に変わりました。

日中活動は「作業所班」でアルミ缶潰し。「缶あるかな」「缶を頼まないといけないな」と、いつも仕事の事を気にされ、集中して取り組んでいます。

ハウスでは居間でテレビを見たり、大好きなジグソーパズルをして過ごされています。いつも1000ピースの大きなパズルを作り、完成したパズルは自分で糊付けをし、額に入れて飾っています。

毎年春、建物のあちこちにツバメが巣を作ると「卵産んだかなあ」「あー！赤ちゃん産まれた」と、巣立つまで毎日温かく見守る恵子さんです。障害の重い利用者さんを気にかけて、

「大丈夫？」など思いやりのある言葉をかけてくれる優しさもあります。

名古屋の施設で暮らす父親に会いに行くことも楽しみのひとつ。「お父さん元気かなあ」と、必ず手土産を用意して会いに行きます。父に寄り添い、手を握って話をじつと聴いている姿は微笑ましいです。

今後も仕事や楽しみを充実させ、「キラリンとーぷ」での生活を楽しんで下さい。

後藤 幸代



ジグソーパズル大好き！

職員

「お気に入り教えてくれる支援の広がり」

みらいろ 小塚 千愛



私は大学の社会福祉士実習で、ゆたか福祉会と出会いました。仲間たちが楽しそうに働いている姿に心動かされ、そんな環境の中で「自分も働きたい」と思い、入職を決めました。

入職して約9か月、日々学ぶことの連続ですが、周囲の先輩職員や仲間たちに支えられながら頑張っています。私が力を入れていることは「仲間の『好き』を知ること」と「作業改善」です。

みらいろの仲間は人生の先輩が多く、会話の中で知らない話題が出ることがあります。「それって何？」と聞くと、たくさん教えてくれる仲間のおかげでどんどん知りたくなります。そこから広がる会話を楽しんでいます。伝えてくれたお気に入りには支援にも取り入れ、「仲間の好きを知ること」を大切にしています。

「作業改善」では、複雑で難しい作業工程を「いかに単純で分かりやすくできるか」に取り組んでいます。

先輩職員や治具を作製してくれるボランティアの人と相談しながら、作業動作の見直し、色や印など視覚的に分かりやすい工夫を行っています。

また、作業工程の得意不得意を知るために、アセスメントの見直しも行っています。仲間のあきらめない姿や「できた！」と喜ぶ姿に、たくさん励まされ支えられています。

まだまだ知らないこともあります。仲間の困りごとに気付ける力を身につけ、信頼される支援者になりたいです。また、働いていて介護技術を身に付けていく必要があると感じました。3年後には介護福祉士の資格取得にも挑戦したいと思っています。



「できた！」嬉しいね